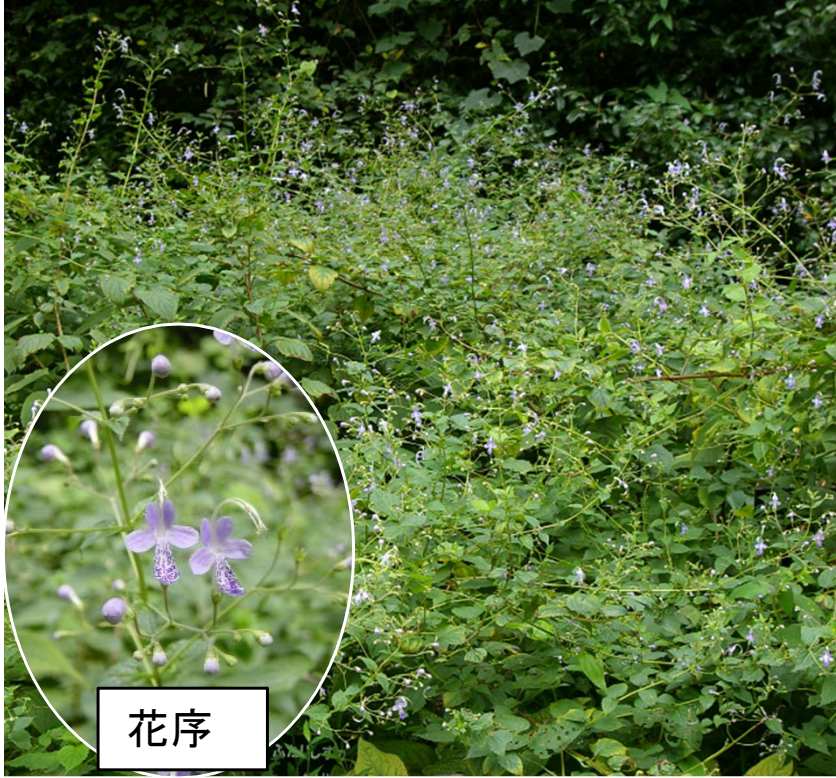


カリガネソウ

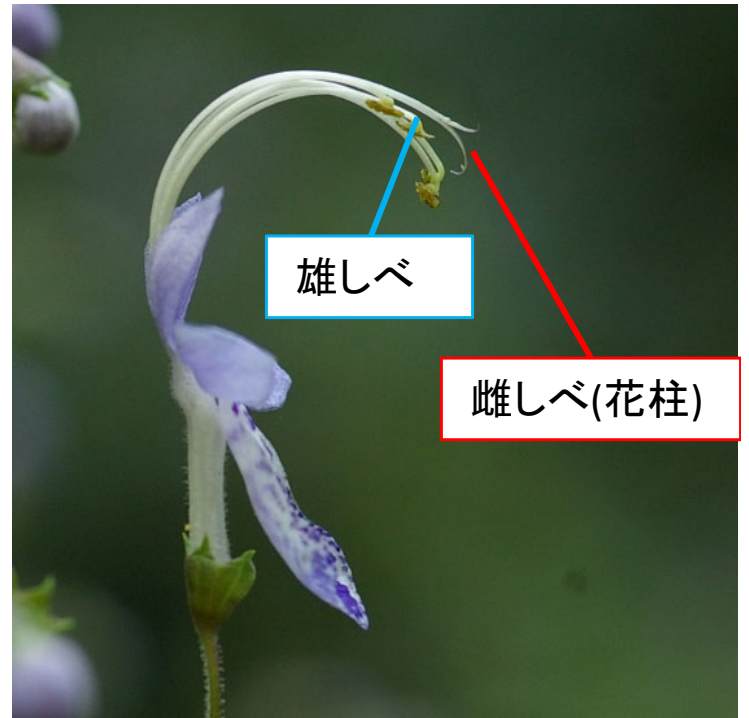
シソ科

山地に生える高さ1メートルほどの多年草で、葉に強い臭気をもつ。上部の葉の脇から花序を出し、まばらに青紫色の花をつける。

園内での花期は通常、9月上旬から10月上旬頃だが、近年は開花が遅い傾向にある。



花序



花は5弁花で、4本の雄しべと1本の雌しべが上に長く伸びて湾曲する。雄しべは長短2本ずつ。

雄しべと雌しべを含めた特徴的な花の形を雁(かりがね)が飛ぶ姿に見立てたのが、名前の由来。

虫がとまると花がたわみ、花粉と柱頭が背中につくようになっている。

花が終わり、残ったがくの殻の中で2つから4つの小さな果実ができる。11月中旬になると黒く熟す。地下茎によっても増えるため、園では適度に大株を間引きしている。



熟した果実(11月)
完熟すると、殻から実がこぼれおちる



芽生え(4月)
短い地下茎から、いくつもの茎が直立する